HTOKMK35
HB000206080725

Navigation ナビゲーション

OSJ OUTDOOR SPORTS JAPAN FREE STYLE EXPRESS

OSJおんたけ ウルトラトレイル100km

日本に誕生 100kmトレイル 山を極める

超人集結

日本のトレイルレース史上初、100キロを走破する「OSJおんたけウルトラトレイル100km」が7月20日（午前零時スタート。制限時間は20時間）、327人が参加して長野県王滝村で行われた。ビッグ3と言われる石川弘樹（33・神奈川＝Team Montrail）、鏑木毅（39・群馬＝THE NORTH FACE）、相馬剛（34・静岡＝チーム・サロモン）が国内初の100キロで競う記念碑的なレース。趣味的トレイルランニング、そしてレースと、トレイルはいま、走り好きや山好きを熱くさせている。

長野県王滝村

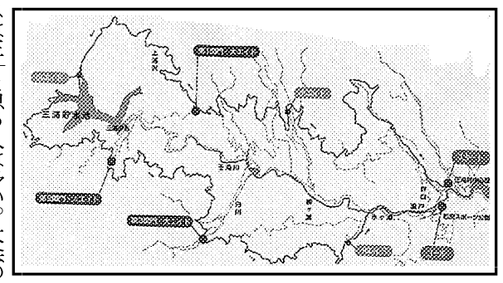
制限は20時間

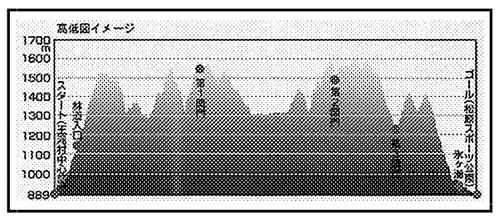
スタート地点、王滝村小・中学校のグラウンドは、深夜にもかかわらず参加ランナー、関係者の熱気で沸騰していた。

午前零時、スタート。ヘッドランプの集団は、地上の天の川となって山影へ吸い込まれた。

トレイルのコースは通常、登山路を利用しているが、今回のコースは王滝村にある国有林の林道に設定された。スタートして33キロ地点に第1関門、65キロが第2関門、80キロに第3関門が設けられ、水分、軽食が補給できる。そして関門は、リタイアや制限時間オーバーのランナーをピックアップする場でもある。

山の中を100キロも、と聞いただけで「過酷！」と思う人は多い。大会のメーンスポンサー、アメアスポーツジャパン（株）サロモン事業部マーケティング本部長の若月等さんは「ただひたすら走るのではなく、渓流に入ってジャブジャブ体をクールダウンしたり、景色を楽しみながら、レースをしていることを楽しみ、レースから楽しみを見いだすところにおもしろさがあるんです。ファッションも、ロード（マラソン）に比べていろいろな組み合わせで楽しめます」と話す。





ビッグ3激闘

レースは予想通りビッグ3の争いとなった。第2関門は鏑木がトップで通過し、2位石川に10分差、石川から5分遅れて3位相馬という展開。関係者は8時間台でゴールすると読んでいた。

夜明けとともに、レースに密着取材している長野朝日放送のヘリコプターが飛来した。松原スポーツ公園のゴール地点で選手に振る舞う豚汁づくりが始まった。

午前8時26分、ゴールの凱旋（がいせん）門で刻々とレース状況をマイクで伝えていた「ウルトラトレイル」の実行仕掛け人、（有）パワースポーツの代表・滝川次郎が一段と声を張り上げた。「1位がやって来ます！」記念すべき初代優勝者は誰なのか―。

鏑木が、来た。石川1位の予想を覆し、タイムは8時間26分44秒10。山道を1時間に11・8キロという驚きの走り。2位は約17分差で石川、3位は石川に25分遅れて相馬。

女性は10時間53分46秒67、総合でも19位の小川比登美（34・神奈川県）が2位松浦真由美（44・埼玉県）に約42分差をつけて制した。

家族とゴール

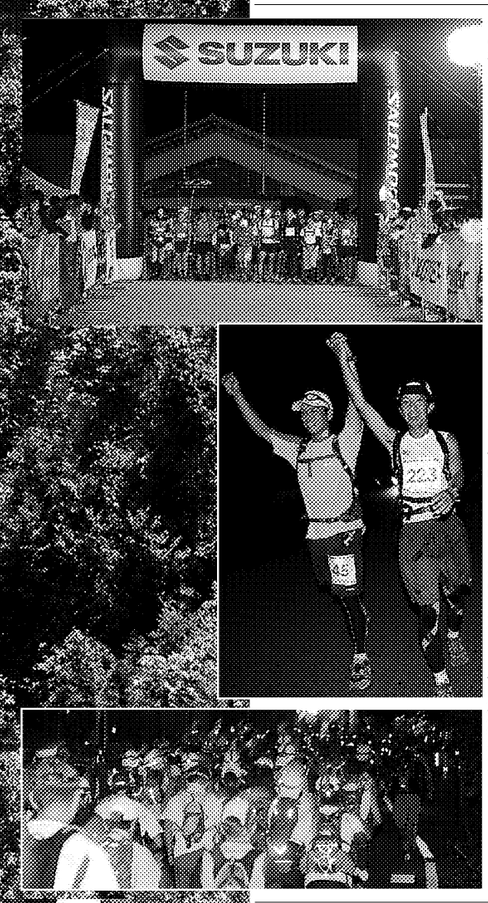
午前11時44分、26位がゴールに近づいて来た。静岡から参加した前田浩一（36）。あと10メートル、というところで家族がコースに入り手をつないだ。関係者の粋な計らい。奥さんの里栄さん、長男の陸くん（8）、長女・理子ちゃん（5）、二女の理名ちゃん（4）が一緒にゴールした。

257人完走

ランナーはいつ戻って来るかわからない。途中リタイアしても、家族、妻、恋人は完走を信じ、願い、じっとゴールで愛する人を待つ。トレイルはランナーだけでなく、心のつながり走る。

スタートから19時間41分、最後のランナーが帰ってきた。菊池仁志（26・愛知県）と山本敏弘（49・石川県）。世代も出身地も違う2人が手を取り合っている。左足を引きずる菊池。それをかばう山本。何度目だろう、また涙が出てきた。トレイルは、泣かせる。

男性241人、女性16人が完走した。



▲▲ 男女とも表彰台では、笑顔でお互いの健闘をたたえあった【右】女子の1位になった小川比登美さんは総合でも19位と大健闘